



育苗センター 花の駅通信



83-3356
午前10時～午後4時
(日曜祝祭日定休)

花のある暮らし

『花のまち』をスローガンに掲げる『まち』は全国にも多くありますが、それぞれの『まち』が地域の特色や環境に応じ、さまざまな取り組みをされています。メインとなるコンテンツも、例えば、『まち』に自生するユリやサクラ等の花、大きな花畑や立派なガーデン施設、住民によるオープンガーデンなど多種多様です。

では、一体なぜ、日本中にたくさんの『花のまち』が存在するのでしょうか。観光客を誘致し、経済的な発展を目指す『まち』もあると思いますが、その多くは、花を育て飾ることにより心に癒しと余裕を持って心豊かに暮らす、花壇の植栽や管理などを通じて住民間のコミュニケーションと美しい住環境をつくることなどを目標としているのではないでしょ

うか。しかし、シーズンオフとなる冬の間、『まち』に咲く花々は大幅に減少してしまいます。北海道のような積雪地帯では、春までの約半年間は『まち』から花が消えてしまいます。秋から冬にかけては、ハロウィンやクリスマス、お正月、バレンタインデー、ひな祭り、卒業や入学など、花を飾ってお祝いしたいイベントもたくさんあります。長い冬の間も『花のある暮らし』を維持し、花の持つ癒し効果を一年中享受できる方法はないのでしょうか。

そこで、育苗センター『花の駅』では、夏の間一生懸命育てた花を摘み、その花々をドライフラワーやプリザーブドフラワーに加工して楽しむ方法を研究しています。今回から数回に分け、作り方、楽しみ方を解説してみたいと思います。

ドライフラワーの作り方

①ハンギング法

切り取った花を束ね逆さまにして干す、最も一般的で簡単な方法です。乾燥除湿機などを使用して短期間に乾燥させると、色が比較的鮮やかに残ります。あらかじめブーケ風に束ねて干すと、乾燥させている期間も楽しむことができます。

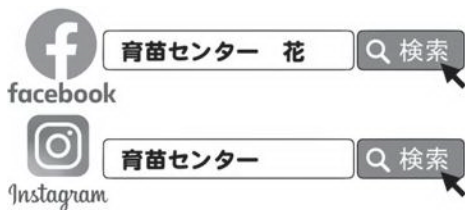
②ドライインウォーター法

少量の水に活けた状態で乾燥させる方法です。逆さに吊るさないで、花の形や雰囲気が残りやすい方法ですが、難易度は高めです。かすみ草やアジサイのような型崩れのしにくい花向きです。

③シリカゲル法

切り取った花をシリカゲル（乾燥剤）に埋める方法です。短期間に水分が抜けるため、花の色や形が生花に近い状態に仕上がります。大きな花や草丈のある花の場合、全体を埋めなければならないので、大量のシリカゲルが必要となります。一輪ずつに小分けするなど小さくすると良いでしょう。

各種体験会やお得なセール情報はこちらから！



1月の営業日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

※網かけされている日はお休みです
※年末年始は12月30日(木)～1月5日(木)までお休みです
※休店日など変更する場合がございます

